

5



hina no marebito のまれびと

当時の沖縄はアメリカ統治下でもちろんパスポートが要った。やんちゃだった喜八郎少年は、喫茶店でのアルバイトに励み、かつ沖繩を揶揄す

『神々の棲む島 与那国島』という100ページを越す写真集がある。ページを繰ると海底に沈む巨大な神殿を思わせる一枚岩や亀のモニユメント、三角プール、太陽石、城門、二枚岩等々。この神秘的な海底遺跡を発見したのはダイビング歴47年、与那国町観光協会を長く牽引してきた新高喜八郎氏だ。この本は一昨年6月30日、氏の古稀祝いで刊行された。

新高氏は12歳で与那国島の母親、15歳で那覇の父親の元を離れ、叔母を頼って上京。

海底遺跡発見で観光に寄与

与那国町観光協会
前会長・相談役

あらたけきはちろう
新高喜八郎氏 (72)



る相手に対して不自由な足を忘れて闘いを挑んだ。高校卒業は2年遅れの20歳。渋谷のバーを任せられ、新宿のクラブを経営する傍ら外車の並行輸入を手がけていた頃、那覇出身の友人・川平さんと知り合い、神奈川県の実鶴でダイビングを教わりインストラクター資格と、船舶免許を取得した。事業は成功したものの、新高氏は年老いた母を想い、与那国島で跡を継ぐことを決意。船舶免許を生かして50フィートの船を購入、母が切り盛りしてきた「旅館入船」を「ホテル入船」にリニューアルし、ダイビングショップ「サーウエス・ヨナグニ」を開業。ダイビングポイントを探すためシヌノーケリングをしていたときだ。「島の南東にある新川鼻沖の真下は淀みがなく、まるでマチュピチュを上空から見ているような」海底遺跡に出会う。

新高氏はダイバー仲間や従業員らに

箱口令を敷き、共同通信社新藤健一記者に海底遺跡を見せると、1997年元旦の琉球新報1面に大きく取り上げられた。全日空(ANA)が国際線でビデオを流すと世界600万部のベストセラー『神々の指紋』著者、グラハム・ハンコック氏が与那国入り。世界的なフリーダイバーのジャック・マイヨール氏も続いた。

海底遺跡調査で石井輝昭東海洋研の教授、木村政昭琉大教授(共に当時)の調査に協力するとともに、遺跡ポイントの名称を考えた。さらに、新高氏はハンマーヘッド(赤シヌモクザメ)のダイビングスポットも探した。与那国島は映画「D.T.「ト」」撮影地と日本最西端の碑も有名だ。「昔は島国根性があった。今なんでも手に入るのでも若いもんから覇気が消えた。今住んでいるところを愛して指名があれば喜んで手を挙げる必要がある」と声を強める。